

第2部
【資料編】歴史津波



【写真1】宮古鉾ヶ崎町海嘯ノ惨状（其十六）
是ハ大鉾ヶ崎ト唱フル処ニシテ、数百戸ノ流亡セシ明地ニ於テ、木片ヲ以テ腐乱セル屍ヲ火葬スル実
況ニシテ、傍ヲ人夫ノ徘徊スルハ荒地ヲ片附クル有様ナリ。

明治29年三陸地震津波



明治29年三陸地震津波

【写真2】宮古鉾ヶ崎町海嘯ノ惨状（其一）
 両町ノ界ナル新道ヨリ宮古町光岸地ヲ眼下ニ其惨況ヲ撮写シタルモノニシテ、左方ハ新晴橋ノ中断ヲ遙ニ眺メ、閉伊川ヲ以テ白帯トナシ、三十余軒ノ家屋皆海吹ノ一掃セル所トナリ、只旧幸和館ノ半潰ト、破レタル一倉ヲ余スノミ。親ハ子ノ屍ヲ潰家ノ下ニ尋ネ、子ハ親ノ行衛ヲ叫ブ。実ニ惨ノ最モ酷ナルモノナリ。



【写真3】宮古鉾ヶ崎町海嘯ノ惨状（其二）
 宮古測候所ヨリ鉾ヶ崎全町ノ惨状ヲ示シタルモノナリ。愛観者細カニ眼光ヲ放テヨ、同町上町ヲ通シテ下町ニ建立セル尋常小学校ニ及ブ、其間斑々破家ノ存立スル花廓ノ傾倒スル、或ハ数百軒ノ家屋、幾百艘ノ漁船、皆木片トナリテ累々波濤ニ漂ヘリ。惨ト呼ビ酷ト叫ブ。人々ノ悲想ハ瞭々トシテ其真ヲ写セリ。



【写真4】宮古鉾ヶ崎町海嘯ノ惨状（其三）
 鉾ヶ崎上町ヨリ宮古測候所ノ下ヲ通シテ鉾浦沿海一帯ノ真況ヲ写シタリ。紙片ノ半ニ累々トシテ穢墨ヲ流シタルハ、是レ破損ノ家屋船舶皆海吹ノ業ト知ルヘシ。中ニ八九死ノ中ニ一生ヲ漸ク繋ギ、木材ニ跨レル一老夫アレトモ、惜ラクハ肉眼之ヲ顕ハスコト能ハザルヲ。

【写真5】宮古鉾ヶ崎町海嘯ノ惨状（其四）
 是ハ之レ鉾港遊郭ノ惨状ナリ。昨夜弾セシ三味線ハ已ニ破軒ノ下ニ埋没シ居レリ。天災ノ恐ルヘキ其瞬間ナル推測スヘキナリ。

【写真6】宮古鉾ヶ崎町海嘯ノ惨状（其五）
 鉾港遊郭ノ内最モ旺盛ヲ極メシ二丁目ノ惨況ナリ。櫛比セル大層高樓モ皆半潰ノ状ヲ呈シ、路上木材ノ横タハル漁船ノ軒下ニアル、家具ノ散乱スル、一目瞭然慘ト言ハザルベカラス。

明治29年三陸地震津波



明治29年三陸地震津波

【写真7】宮古鍛ヶ崎町海嘯ノ惨状（其六）
 鍛港三丁目ノ惨状ナリ。夥多ノ漁船大船地上ニ打上ケラレ数多ノ諸道具
 道路ニ敷イテ歩スル能ハズ。実二目モ当テラレヌ有様ナリ。

【写真8】宮古鍛ヶ崎町海嘯ノ惨状（其七）
 其六ヲ南方ニ撮リシモノニシテ、帆走船ノ逆上セル、鈴木回漕店ノ半潰トナル、
 一二悲惨ノ状ヲ極メタルナリ。



【写真9】宮古鍛ヶ崎町海嘯ノ惨状（其八）
 一見観者ヲシテ感動セシムベキ悲々惨々ノ況ナ
 リ。木材ノ横タハル中ヲ通シテ死屍ヲ運搬スル
 ノ状、誰カ一滴ノ涙ヲ揮ハザル者アラシヤ。

【写真10】宮古鍛ヶ崎町海嘯ノ惨状（其九）
 鍛港下町ノ最モ惨ヲ極メタルモノナリ。人家皆
 流亡シテ荒地ト変ジタリ。帆走船ノ晒場トナリ
 タリ。又恐ルベキ哉。

【写真11】宮古鍛ヶ崎町海嘯ノ惨状（其十）
 堅固ナル土蔵モ激浪ノ為メニ破壊セラレ、蔵ニ
 置キタル品物ハ皆海吹ノ揮洗スル所トナル。是
 ヲ見テ其当時ノ如何ニ激烈ナリシカヲ想像スル
 ニ足ルベシ。

明治29年三陸地震津波



明治29年三陸地震津波

【写真12】宮古嶽ヶ崎町海嘯ノ惨状（其十一）
累々タル破屋ノ下数多ノ人夫群集セシハ、則チ半死半生ノ負傷者ヲ救助スル所ナリ。水災ノ翌日ナレバ此処ヨリ採掘セラレテ生命ヲ助カリシ者二十有余ナリ。



【写真13】宮古嶽ヶ崎町海嘯ノ惨状（其十二）
半陥落シタル土蔵家屋顛覆シタル漁船、又一夫ノ嶽ニ身ヲカカヘテ凄然トシテ立テリアリ、悲想ノ極ト云フベシ。



【写真14】宮古嶽ヶ崎町海嘯ノ惨状（其十三）
天地ノ變、怖ルベシトハ会者ノ言カ、不会者ノ言カ。疑フラクハ不会者ハ此程ノ者トハ予想セザルベシ。父子相携ヘテ悄然トシテ通フルアリ、天是レニ雨ヲ下シテ朦朧タラシメタリ。（注：会者ノ言カ、不会者ノ言カハ見た人の言葉か、見ない人の言葉か）

【写真15】宮古嶽ヶ崎町海嘯ノ惨状（其十四）
嶽浦ノ内峭ノ浜ヲ背面ニ撮写シタルモノナリ。左方ノ建物ハ土蔵ノ破壊ナリ。山麓ノ半潰家屋ハ漸ク海嘯ノ嫌フ所トナレリ。現時近傍ノ人民ハ誰彼トナク此ニ集マリ雨露ヲ凌キ居レリ惨ト云フベシ。

【写真16】宮古嶽ヶ崎町海嘯ノ惨状（其十五）
災害ノ為メ七分潰レシ家屋ニシテ、其中ニハ屍ノ埋マルアリ、遠外ヨリ飛入ル釀造家ノ用ユル大樽アリ、其惨ノ著シキヲ知ルベシ。

昭和8年三陸地震津波



【写真17】 摂待沢の北屋根（尾根カ）から南望、この辺の津浪の高さは海岸の方が内陸より高かった
[東京帝国大学地震研究所]



【写真18】 荒れた砂原と化した田老町 北側乙部の裏山から南望。白煙の上る辺は旧市街地。
左一本杉の下あたり乙部部落のあった地点 [東京帝国大学地震研究所]



【写真19】 田老尋常小学校 [中央气象台]

昭和8年三陸地震津波



【写真 21】 田老村 全村流失の跡 [中央气象台]



【写真 20】 田老村 全村流失の跡（正面の山「御山」は日枝神社） [中央气象台]



【写真 23】 田老村 [中央气象台]



【写真 22】 田老村 [中央气象台]



【写真 25】 田老村 海岸より三丁余距った山麓に印された津浪の跡 [中央气象台]



【写真 24】 田老村 [中央气象台]

昭和8年三陸地震津波



【写真 27】 田老村 [中央気象台]



【写真 26】 田老村 [中央気象台]



【写真 29】 田老村 救援に活躍する近隣の消防隊
[箱石・久里]



【写真 28】 田老村 耕地ノ被害状況 [農林省山林局]



【写真 30】 田老村 災害跡の整理・再建にいそむ人々
[箱石・久里]

昭和8年三陸地震津波



【写真 32】 宮古町 鉾ヶ崎 海岸通岸壁の棧橋板敷きは流され杭だけが残った [箱石・久里]



【写真 31】 宮古町 鉾ヶ崎 海岸通に打ち上げられた船 [中央気象台]



【写真 34】 宮古町 鉾ヶ崎 [中央気象台]



【写真 33】 宮古町 鉾ヶ崎上町 海岸通は（出崎埠頭）埋立て工事のため、人家の被害を少なからしめた [箱石・久里]



【写真 36】 宮古町 光岸地 余動をくり返す閉伊川河口（製材所の釜場） [箱石・久里]



【写真 35】 宮古町 宮古測候所（現在の漁協ビル）付近、倉庫の流失 [中央気象台]

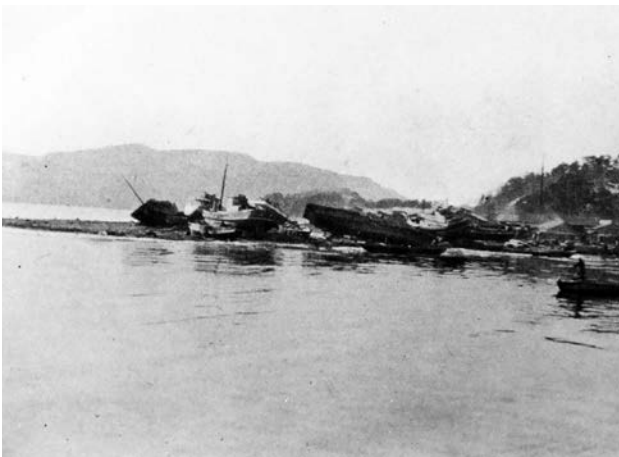
昭和8年三陸地震津波



【写真 38】 宮古町（宮古橋を閉伊川上流より望む）【中央気象台】



【写真 37】 宮古町（築地を望む）【中央気象台】



【写真 40】 宮古町（築地より藤原を望む）【中央気象台】



【写真 39】 宮古町（津浪に押し上げられた船のために破損した宮古橋）【中央気象台】



【写真 42】 津軽石村赤前（運動公園付近）【農林省山林局】



【写真 41】 磯鶏村（金浜から南を望む）【農林省山林局】

昭和8年三陸地震津波



【写真 44】重茂村音部 流失を免れた海浜砂丘裏の家屋 [東京帝国大学地震研究所]



【写真 43】重茂村音部 砂丘と流失を免れた家屋 [東京帝国大学地震研究所]



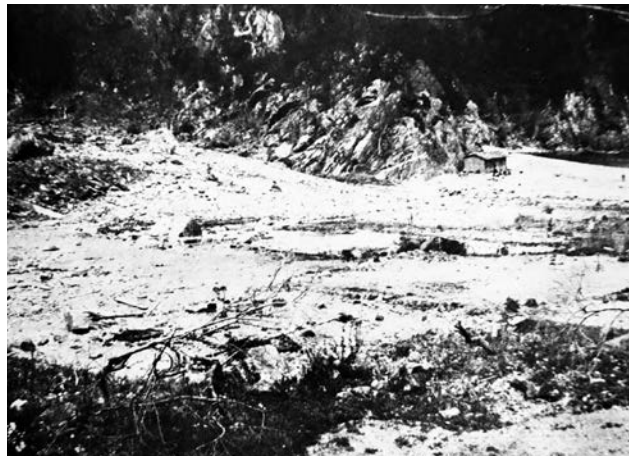
【写真 46】重茂村里の沢の出口 津浪は白い岩山の上を越えた [東京帝国大学地震研究所]



【写真 45】重茂村里 津浪はこの付近の海崖では比較的高く、→で示した程度の浸水があった [東京帝国大学地震研究所]



【写真 48】重茂村 鯉崎半島部川代 [東京帝国大学地震研究所]



【写真 47】重茂村姉吉 海浜の小舎はバラック [東京帝国大学地震研究所]

昭和35年チリ地震津波



【写真 50】前須賀（鋏ヶ崎港町）最高潮位の浸水状況
【宮古測候所】



【写真 49】前須賀（鋏ヶ崎港町）浸水状況【宮古測候所】



【写真 52】（鋏ヶ崎港町交番前）路上に散乱したドラム缶
【宮古測候所】



【写真 51】（鋏ヶ崎港町前須賀バス停）最大波の押上げ
途中 04 時 33 分【宮古測候所】



【写真 54】新川町【宮古測候所】



【写真 53】（築地臨港線の線路）【宮古測候所】

昭和35年チリ地震津波



【写真56】閉伊川 国鉄（現：JR）山田線の鉄橋
[宮古測候所]



【写真55】（向町）[宮古測候所]



【写真57】高浜 航空
[宮古測候所]



【写真58】金浜 航空
[宮古測候所]

昭和35年チリ地震津波



【写真 60】高浜 県道（現国道 45 号）〔宮古測候所〕



【写真 59】（磯鶏）神林 水産高校の艇庫〔宮古測候所〕



【写真 62】高浜 中心地の惨状〔宮古測候所〕



【写真 61】高浜（倒れた電柱）〔宮古測候所〕



【写真 64】高浜 倒壊して県道（現国道 45 号）に乗り上げた家屋〔宮古測候所〕



【写真 63】高浜（倒壊した火の見櫓、江山寺付近）〔宮古測候所〕

昭和35年チリ地震津波



【写真 66】津軽石法の脇から金浜を望む【宮古測候所】



【写真 65】金浜 江山寺を望む【宮古測候所】



【写真 68】津軽石法の脇 家屋の被害【宮古測候所】



【写真 67】津軽石法の脇 国鉄（現：JR）山田線の線路【宮古測候所】



【写真 70】津軽石堀内【宮古測候所】



【写真 69】津軽石赤前【宮古測候所】

昭和43年十勝沖地震津波



【写真 72】（田老漁港に浸入する津波）[宮古測候所]



【写真 71】（田老漁港 引き波）[宮古測候所]



【写真 74】（衝突・転覆する漁船）[宮古測候所]



【写真 73】（田老漁港）[宮古測候所]



【写真 76】（岩に激突する漁船）[宮古測候所]



【写真 75】（波に流される漁船）[宮古測候所]

昭和43年十勝沖地震津波



【写真 78】 閉伊川河口の津波 藤原を望む
【宮古測候所】



【写真 77】 鉾ヶ崎 10時32分頃の引き波【宮古測候所】



【写真 80】 高浜海岸 養殖施設のガレキ【宮古測候所】



【写真 79】 金浜海岸 襲いかかる津波
【宮古市教育委員会】



【写真 82】 赤前（県道重茂半島線）浜に打ち上げられたガレキ【宮古測候所】



【写真 81】 津軽石赤前【宮古測候所】

第2部【資料編】歴史津波 解題

〔写真〕

明治29年三陸地震津波の鉾ヶ崎・光岸地の被害状況を撮影した貴重な写真である。これらの写真は、キャビネ判の写真を台紙に貼り、19枚のセットにして販売されたものと考えられている。裏面に「宮古鉾ヶ崎町海嘯ノ惨状」と題してキャプションを付け、「陸中宮古鉾ヶ崎町写真師 末崎仁平」と書かれている。明治15年に開削された光岸地の切通しや大島、帆走船など、大正時代に埋め立てられる前の鉾ヶ崎の光景がうかがえる。

昭和8年三陸地震津波の写真は、東京帝国大学地震研究所編纂『地震研究所彙報別冊 第1号』（1934年）、中央気象台『昭和8年3月3日三陸沖強震及津浪報告』（1933年）、農林省山林局『三陸地方防潮林造成調査報告書』（1934年）の各文献からの写真を中心に複写転載した。「箱石・久里」は、宮古町で米穀店を営んだ箱石寿が当時法政大学学生だった時に撮影した写真である。箱石氏の遺族が『田野畑村の大津波・伝承と証言』を出版していた久里十太郎氏に寄贈され、久里拓洋著『三陸大津波写真集』として出版された。

昭和35年チリ地震津波・昭和43年十勝沖地震津波の写真は、旧宮古測候所から提供をいただいた。

チリ地震津波までは津波防潮堤が整備される前の被害状況で、ガレキも木材が目立つ。それに較べて、今回の東日本大震災ではいかに膨大なガレキが生じたかがわかる。また、漁港や岸壁が整備される前の海岸の地形を見ることができ、十勝沖地震津波では、津波が岸壁を越えなかったため、田老漁港への津波の進行状況と漁船の転覆が中心となった。

宮古地方地震津波年表

東京大学地震研究所『新収日本地震史料』を底本として、三陸地方

に起った地震と津波のうち被害が記録されたものを収録した。本解題では、津波の記述があるもののみ解説し、見出しに（ ）で西暦での年月日を付した。

●貞観11年5月26日（869年7月9日）

夜、M8.3ないし8.4以上と推定される巨大地震とこれに伴う津波が陸奥国（東北地方太平洋側）で発生し、甚大な被害があったことが『日本三代実録』に記されている。地震に伴う発光現象があり、夜間に巨大地震が起きたと見られる。この地震によって、家屋の倒壊、土地の地割れ、多賀城内の城郭・倉庫・門などが倒壊。多賀城下にたちまち押し寄せた津波により、溺死者千人、土地・建物・道路など壊滅的な被害を受けた。

●慶長16年10月28日（1611年12月2日）

三陸地方で大地震があり、仙台・盛岡・津軽・松前藩領に津波が来襲した。昼八ツ時（14時頃）大津波で門馬（笠間力）・黒田・宮古が騒動し、17時頃大方水が引いた。海辺通は一軒もなく波にとられ人が多く死に、家をとられた人は路頭に迷った（「宮古由来記」）。地震が3度あり次に大波が来て、山田は房ヶ沢まで、織笠は鈴堂まで波が来た。鶴住居・大槌・横須賀で800人、船越で50人、山田浦2人、津軽石で150人が死亡し、大槌・津軽石は市日のため数多く死亡した（「盛合家文書」）。

●延宝5年3月12日（1677年4月13日）

東北地方で20時頃から明け方まで20度余りの地震があり、被害が出た。17日宮古通へ大波が寄せ、波にとられた家数は鉾ヶ崎1軒・金浜12・13軒、高浜1・2軒、赤前5・6軒、塩釜6工が波にとられたと宮古代官所より報告があった（「雑書」）。

●元禄12年12月8日（1700年1月27日）

地震がないのに津波で海辺の家などが取られ、津軽石へは久保田渡りまで、法の脇は稲荷（神社）の下まで津波が到達した（「盛合家文書」）。鉾ヶ崎では、8日真夜中に津波が打ち寄せ、出火して20軒焼失、13軒が波に取られた（「雑書」）。

この津波は米国北西海岸シアトル近海で発生した地震によるものであることが、米国地質調査部のブライアン・アトウォーター氏と日本の活断層研究センター佐竹健治氏らの研究により明らかになっている。

●寛延4年5月2日（1751年5月26日）

大潮が差し込み釜石浦熿石で13軒、両石浦で15軒、大槌浦安渡60軒、織笠浦20軒、山田町大沢浦50軒が床下浸水、田畑苗代・町小路まで潮水が上がった〔雑書〕。地震があったとは記されていない。

●宝暦12年12月16日（1763年1月29日）

20時頃大地震それより1時間ばかりして大波が川へ押し込み、海辺の人々が大いに驚き山へ逃げた〔幾久屋文書〕。

●明和9年5月3日（1772年6月3日）

正午頃に大地震が発生し、地割れがして水がわき出る。人馬多く死す〔須賀原家文書〕。茂市村・田老村・長沢村・川井村・箱石村・重茂村で大岩が崩れるなどして死者が出る〔雑書〕。

死者が出るほどの大地震でありながら津波がなかったことから「草木青葉の節は津波がない」と言い伝えられた。

●寛政5年1月7日（1793年2月17日）

地震は、寛政5年正月7日12時頃で、寛政南三陸沖地震と言われる。宮城県はるか沖の海溝付近で発生し、大きな津波を伴った。地震史料により盛岡から福島に至る内陸部で震度5、宮古・大槌は震度4と推定される。昭和8年三陸津波・昭和58年日本海中部・平成5年北海道南西沖の津波と同等の規模と考えられている（『日本歴史災害事典』）。

12時から14時頃まで大地震で津波が押し寄せ、大槌通代官所管内で被害が大きかった。家屋の流失・損壊が、両石浦で79軒・死者9人〔雑書〕。宮古では、大地震があり津波が寄せ、海辺通は大騒動でたいへんであった〔幾久屋文書〕。川津波が3・4度きて山に逃げた。藤原・磯鶏・宮古には水があがらなかったが、2月中まで余震があり宮古・藤原などでは山に小屋をかけて避難した〔古実伝書記〕。

●天保8年10月11日（1837年11月8日）

真夜中に津波が来て、和泉町（現・陸前高田市）の鮭川留が押し破られ、赤崎（現・大船渡市）の御塩場廻りの土手が破られる。大地震もないのに津波があり不審である〔気仙町小嶋家文書〕。

チリ南部沖を震源とする遠隔津波であった（大船渡市立博物館「三陸沿岸地震津波年表」）。

●天保14年3月26日（1843年4月25日）

午前6時頃大地震あり、海辺にことごとく津波が押し寄せ鉾ヶ崎も浸水する〔浮世考がい記〕。津波がよせ、赤前で家に損害があり、4月17日まで余震があった〔長沢災異記〕。

●安政3年7月23日（1856年8月23日）

13時頃地震、間もなく津波で宮古代官所前の道に水が上がった。鉾ヶ崎の小島あたりから大鉾ヶ崎一帯まで浸水した。鉾ヶ崎村・高浜村・金浜村・津軽石村・赤前村で居家108軒、納屋32ヶ所が流失または損壊した〔内史略〕。「青葉の節は津波なきもの」と聞いて油断していた所に津波に襲われ、寛政5年正月の津波くらいに水があがった〔奥南見聞録〕。

●明治三陸地震津波（1896年6月15日）

旧暦端午の節句5月5日は、朝からどんよりとした日で、小雨が降ったりやんだりしていた。午後7時32分頃、三陸沖で震度2程度の緩やかな地震の揺れを感じたが、節句を祝い、あるいは前年の日清戦争の勝利を祝い、人々は気にもとめなかったという。約30分後、大音響とともに大津波が襲来した。第2波が最大で満潮時とも重なり、最大打上高は綾里村白浜（現・大船渡市）で35・2呎に達し、2万2千人の命が一瞬にして奪われた大津波であった。

田老村では地震後、空砲のような轟音が3回あり、20時20分頃激浪に襲われた。翌朝まで7回の津波があり、1千850人が死亡、生存者183人とある。下撰持は当時10戸の小村であったが、畜養していた27頭の牛が全滅、村民43名中26名が死亡した。（『大海嘯被害録』）

宮古町では午後8時10分頃、大津波が押し寄せ、南西に進んだ波が磯鶏石崎から北に折れて、光岸地を突いて東に進んだ。さらに屈折し

て鍬ヶ崎を洗った。宮古町は比較的被害が小さく、戸数987のうち流失23戸・全半壊13戸、人口6千500のうち死亡12名・重傷6名としている。（『大海嘯被害録』）

鍬ヶ崎尋常小学校では、端午の節句にあたって幻灯会を催していた時に津波が襲来した。町長が生徒を学校から外出させないように指示して助かったが、在宅の子供たちの多くが死亡した。

重茂村では全村232戸のうち流失・損壊160戸、1千506人中733人が死亡、重傷51人で、当分町村として成立できないだろうとされた。姉吉では、全戸数11戸が流失し、総人口78名のうち72名が溺死、重傷者5名も死亡した。（『大海嘯被害録』）

●昭和三陸地震津波（昭和8年3月3日）

午前2時31分、三陸沖でM8・1の巨大地震が起きた。地震の揺れは明治三陸地震の時より強く感じられ、家屋の一部に壁の亀裂や石垣の破損など軽い被害がでる程であった（震度5）。地震の約30から40分後に三陸と北海道襟裳岬付近の海岸は、大きな津波に襲われ、三陸沿岸と北海道南岸に死者1千522名、行方不明者1千542名、家屋流失4千034戸、倒壊1千817戸という大きな被害が出た。

宮古町では町の中央を貫流する宮古川（閉伊川）を遡って一丈（約3¹/₂）の津波が押し寄せ、鍬ヶ崎・新川町・藤原・磯鶏村海岸一帯が床上浸水した。田老村は、戸数600戸中、残ったのは小学校・役場・寺院・住家3戸で荒野と化した。（『験震時報第七巻』）

●チリ地震津波（昭和35年5月24日）

5月24日早朝、地震もないのにわが国の太平洋沿岸を突如として大津波が襲った。この津波の原因となった地震は、日本から地球の反対側になる南米チリのバルディビア沖で発生したM9・5の地震で、観測史上世界最大の地震であった。日本時間5月23日4時11分に発生した地震による津波が太平洋に広がり、途中ハワイで死者61人などの被害をなし、23時間後の未明に日本の沿岸部に到達したのである。

津波は日本の太平洋岸全域に及び、波高が高く被害が大きかったのは比較的大きな湾で、大船渡湾・広田湾・山田湾・宮古湾であった。

チリ津波の特徴は、波高が湾口で低く奥に行くに従って高くなっていることで、昭和8年は逆に奥に行くに従って低くなっている。宮古湾で湾口2・0¹/₂、中央部で3・0から5・0¹/₂、湾奥部で6¹/₂と次第に高くなっている。宮古市の被害は、罹災世帯数740、行方不明1であった（『岩手県災害関係行政資料』）。

田老では役場の観測で波高3¹/₂、岸壁に積んであった木材が流失した。高浜は県道東側の民家は全て流失、西側の建物もほとんど山際に押しつけられて潰された。金浜では、国鉄山田線線路の東側は建物が全て流失または全壊した。法の脇が最も被害が大きく、波が奥まで到達した。赤前は民家が比較的高く海岸から離れているため被害は少ないが、堤防付近で波高5¹/₂が確認された（仙台管区気象台『チリ地震津波調査報告』）。

●十勝沖地震津波（昭和43年5月16日）

午前9時49分にM7・9の巨大地震が発生し、釧路から青森・岩手・宮城県北部の太平洋沿岸を数メートルの津波がおそった。実際の震源域は三陸北部沖で、延宝5年・宝暦13年・安政3年の津波が同様の被害をもたらしたと考えられている。

地震発生後20から60分の間に北海道および東北の太平洋沿岸に津波が来襲した。昼間の干潮時であったことと、チリ地震津波後、海岸堤防や護岸など海岸保全設備が整備されてきたため、津波による被害は比較的少なかった（『1968年十勝沖地震調査報告』）。宮古で震度3を記録、津波の最大波高216¹/₂を記録した（『十勝沖地震に関する地震津波速報』）。

赤前の津波堤防での波高は4・98¹/₂を記録、きりたった津波により海苔・カキ・ワカメの養殖施設などに被害を与え、被害額は3億6千万円にものぼった（『広報みやこ 昭和43年6月1日号』）。

宮古地方地震津波年表

<p>●天長7年(830)1月3日 出羽国地震。秋田城損壊、四天王寺仏像倒壊。[類聚国史]</p>
<p>●承和6年(839)4月 陸奥で頻りに地震あり、多くの百姓恐れ逃げる。多賀城・胆沢城へ援兵を要請する。 [続後記]</p>
<p>●嘉祥3年(850)10月16日 出羽国地震。圧死者多く出る。[文徳実録]</p>
<p>●貞観11年(869)年5月26日 陸奥国大地震。家屋倒壊による圧死者多く、多賀城の城郭など損壊する。 城下に津波押し寄せ、溺死者千人余り。[三代実録]</p>
<p>●享徳3年(1454)11月23日 関東から東北にかけて夜半に地震あり、奥州に津波入り人多く取られる。[王代記]</p>
<p>●明応元年(1492)6月16日 陸奥国会津、大地震。[塔寺八幡宮長帳続]</p>
<p>●天正15年(1587)5月10日 仙台地方で地震。[伊達治家記録]</p>
<p>●文禄3年(1595)12月24日 宮城県(登米地方)で大地震。[登米郡史]</p>
<p>●慶長元年(1596)3月6日 宮城県(登米地方)で夜地震 [登米郡史]</p>
<p>●慶長13年(1608)11月23日 仙台海浜に大地震、男女50人余り死す。[藩祖成蹟]</p>
<p>○慶長16年(1611)8月21日 慶長会津地震。8時頃大地震が会津盆地を襲う。死者3千数百人。[歴史災害事典]</p>
<p>●慶長16年(1611)10月28日 三陸地方で大地震、仙台・盛岡・津軽・松前藩領に津波来襲。14時頃大津波で門馬(笠間カ)・黒田・宮古が騒動し17時頃大方水が引いた。海辺通は一軒もなく波にとられ人多く死に、家をとられた人は路頭に迷った [宮古由来記]。地震が3度あり次に大波が来て、山田は房ヶ沢まで、織笠は鈴堂まで波が来た。鶉住居・大槌・横須賀で800人、船越で50人、山田浦2人、津軽石で150人が死亡し、大槌・津軽石は市日で数多く死亡した [盛合家文書]。</p>
<p>○寛永17年(1640)6月14日 13日より北海道で駒ヶ岳噴火、北海道内湾に津波 [弘前市史]。</p>
<p>●正保3年(1646)4月26日 陸前・磐城で大地震、仙台城・白石城で城壁破損 [伊達治家]。盛岡城で酌み水こぼれる [雑書]。</p>

<p>●明暦2年(1656)3月22日 22日21時頃より大地震。八戸城で家蔵の戸障子破損、土蔵の壁落ちる〔雑書〕</p>
<p>●寛文7年(1667)7月3日 盛岡・八戸で地震。八戸で壁破損〔八戸藩日記〕。</p>
<p>●寛文8年(1668)7月21日 仙台・盛岡で大地震、道路割れ、家破損。以後4日間揺れる〔近世日誌〕。</p>
<p>○寛文11年(1671)7月12日 松前下国の岳で噴火、南部・津軽で地鳴り〔津軽史〕。</p>
<p>●寛文11年(1671)8月 花巻で6時から20時頃まで地震。町家10軒ばかり倒れ、庇の落下多数〔花巻市史〕。</p>
<p>●延宝2年(1674)3月10日 八戸で大地震、城内・諸士屋敷・町家とも損害おびただしく、南宗寺廟所破損〔奥南温古集〕。</p>
<p>●延宝4年(1676)3月12日 南部大浦(青森県カ)で民家20軒流失、人馬に損害なし〔津軽家記〕。</p>
<p>●延宝5年(1677)3月12日 20時から明け方まで20回以上の地震があり、北閉伊浦々へ大波(津波)寄せ、家・船・塩釜が波に取られる。宮古浦で船2艘取られ、磯鷄浦船3艘破損。金浜浦で船10艘破損し、家8軒家財流れ5軒廻り壁が破れる。高浜浦で船3艘破損、麦畑3人役程浸水。津軽石浦で麦畑70役程浸水、船6艘破損。赤前浦で家5軒家財等流れ、5軒廻り壁破れ、塩釜6工波に取られる。赤前田畑共に5・6石程浸水。鍬ヶ崎浦で家1軒家財流れ、4軒は廻り壁押し払い、麦畑4つ役程浸水、塩釜2工破損。摂待浦で家28軒、船31艘が破損・流失し、塩釜8工・麦畑77役程・田畑共に5・6石程浸水。〔雑書〕</p>
<p>●延宝6年(1678)8月17日 20時頃大地震、花巻で御城・御役人共の家の壁大方崩れ、三御町で家14～15軒転ぶ。川口町で梁落ち女1人死亡、馬3疋死ぬ。一日市御仮屋の土蔵転び、御仮屋大方破損〔雑書〕。</p>
<p>○元禄7年(1694)5月27日 元禄能代地震。秋田領能代で大地震、残らず打ちひしぎ、家・蔵焼失し、600人程死亡〔雑書〕。</p>
<p>●元禄12年(1699)11月8日 8日より9日まで大潮にて海辺の場所によって家など取られる。津軽石では久保田渡りまで法の脇は稲荷(神社)の下まで波が来た〔日記書留帳〕。鍬ヶ崎浦で出火20軒焼失、13軒破損。159人へ御蔵米を少し配給した〔雑書〕。</p>
<p>○元禄16年(1703)11月23日 元禄地震。未明に房総半島沖を震源とする地震あり、房総半島から相模湾沿岸にかけて被害甚大〔歴史災害事典〕。</p>
<p>●宝永元年(1704)4月24日 宝永元年能代地震。秋田領能代で大地震、家・蔵多数潰れ100人程死亡、怪我人数知れず〔八戸藩日記〕。</p>

<p>●宝永4年(1707)10月4日 八戸で地震、湊十分一小屋後ろまで小潮入る〔八戸藩日記〕。 宝永地震、14時頃遠州灘沖から四国沖に巨大地震〔歴史災害事典〕。</p>
<p>●正徳2年(1712)4月23日 17時頃八戸で大地震、御屋敷少々破損〔八戸藩日記〕。</p>
<p>●享保2年(1717)4月3日 14時頃仙台で強い地震あり、仙台城本丸石垣少々崩れ、二ノ丸の塀屋根崩れ落ちる。 地割れもあり、神社等の石灯笼倒れ、城下並びに在々所々破損〔雑事日記〕。</p>
<p>●享保21年(1736)3月20日 仙台で18時頃より暁にかけて地震数十回あり、城中所々石塁等および澱橋破損〔獅山 公治家記録〕。</p>
<p>○寛保元年(1740)7月19日 寛保津波。早朝、北海道と津軽半島を津波が襲う〔歴史災害事典〕。</p>
<p>●寛保3年(1743)10月7日 1時頃八戸で大地震、被害多く諸役人参殿する〔奥南温古集〕。</p>
<p>●寛延4年(1751)5月2日 14時頃大槌通で大潮差し込み、敷き板下或は田畑苗代・町小路まで潮水あがる。嬉石 13軒・両石浦15軒・安渡60軒・織笠20軒・大沢浦50軒の床下浸水〔雑書〕。</p>
<p>●宝暦5年(1755)2月17日 16時頃地震、八戸で御殿並びに外通破損、南宗寺御廟所破損〔八戸藩日記〕。</p>
<p>●宝暦12年(1762)12月16日 夜前に大地震、八戸で所々破損あり、南宗寺御廟並びに御仏殿破損〔八戸藩日記〕。18 日湊村に津波差し込み流破船7艘あり。久慈種市通の流破船13艘、堤防橋梁の破損数 ヶ所〔奥南温古録〕。16日18時頃の地震により厨川通土湊村で家1軒潰れ、死馬3疋。 沼宮内通平館村で肝入の家潰れ男女3人死亡。田名部通・野辺地通で潰れ家多く、死者 あり〔雑書〕。鍬ヶ崎で損害あり、赤崎(赤前カ)浦で網納屋破損〔釜石市誌〕。</p>
<p>●宝暦13年(1763)1月9日 正月26日まで度々地震あり〔雑書〕、八戸で大橋破損〔八戸藩日記〕。</p>
<p>●宝暦13年(1763)1月27日 八戸で大地震、家・土蔵大破、南宗寺石塔崩れる〔奥南温古録〕。</p>
<p>●宝暦13年(1763)2月1日 14時頃大地震、八戸玄中寺大破。八戸城内惣塀大破〔八戸藩日記〕。</p>
<p>●明和3年(1766)1月28日 明和津軽地震。津軽・陸奥で18時頃大地震。弘前城東御門潰れ、黒石城下で町家400 軒程潰れ、死者200人。青森で家723軒焼け潰れ、死者198人。大浜で400軒残らず 焼け潰れ、死人400人。浪岡村で家50軒余潰れる〔古実伝書記〕。</p>
<p>●明和6年(1769)6月9日 8時頃地震、八戸で大橋5間落橋、南宗寺で石塔・石灯笼・庫裡・大門が破損〔八戸藩日記〕。</p>

<p>●明和9年(1772)5月3日 12時頃大地震、盛岡城の石垣小破、花巻城所々破損。宮古通長沢で死者・死馬あり〔吉田家文書〕。腹帯村・田老村・長沢村・川井村・箱石村で大岩崩れ死者あり〔雑書〕。大地震であったが津波がなく、「古人ハ草木青葉ノ節ハ津波之レナキコトヲ言残シ置キヌ」〔梅荘見聞録〕</p>
<p>○寛政4年(1792)12月28日 寛政西津軽地震。午後2時半頃地震、鱒ヶ沢・深浦・下北の田名部で津波を記録〔歴史災害事典〕。</p>
<p>●寛政5年(1793)正月7日 寛政南三陸沖地震。12時頃大地震あり、陸中・陸前・磐城に津波寄る。大槌通代官所管内で被害甚大。流失家屋72軒、損壊家屋11軒、船流失47艘、死者11人〔雑書〕。宮古では川津波が3・4度遡上し山に逃げた。宮古町・藤原・磯鶏には波は余り寄せず、損害はなかった。2月中まで小地震あり、宮古・藤原では山に小屋をかけて避難した〔古実伝書記〕。宮城県はるか沖の海溝付近を震源とする地震〔歴史災害事典〕。</p>
<p>●文化元年(1804)6月4日 象潟地震。22時頃出羽庄内地方で大地震、津波寄せ人馬死に家々も数千軒潰れる〔寛政日記〕。</p>
<p>●文化5年(1808)閏6月16日 7時頃大地震、岩泉板橋鉄山で炭釜21筒破損〔雑書板橋御鉄山〕。</p>
<p>●文政4年(1821)8月16日 11時頃大地震、八戸で殿中および塀垣に破損多くあり〔奥南温古集〕。</p>
<p>●文政6年(1823)8月25日 24時頃大地震あり、沼宮内・西根通で潰れ家105軒、所々山崩れ鹿角あたりまで山里のうち死者69人、行方不明4人〔奥南見聞録〕。</p>
<p>●天保3年(1832)2月13日 12時頃大地震あり、八戸で御殿通・諸役所の壁所々落ち、南宗寺並びに本寿寺の石碑所々痛む〔八戸藩日記〕。</p>
<p>○天保4年(1833)10月26日 天保庄内沖地震。14時頃山形県酒田沖で地震発生、北海道函館から隠岐諸島で津波を記録、山形県沿岸域で被害甚大〔歴史災害事典〕。</p>
<p>●天保6年(1835)6月25日 14時頃大地震あり、岩手県南から仙台にかけて石垣・蔵の壁など崩れる〔皆川家日記〕。仙台城石垣所々崩れ破損する〔御年代記〕。</p>
<p>●天保8年(1837)10月11日 真夜中、気仙郡・本吉郡に津波入り込み、今泉川(陸前高田市)の鮭川留が押し破られる。大船渡赤崎御塩場廻りの土手が押し破られ、塩2,000俵津波に取られる。大地震もなく津波があり不審〔小嶋家文書〕。</p>
<p>●天保13年(1842)6月18日 20時頃地震あり、気仙郡で土蔵の壁多く痛む〔世乃中風唱聞書記〕。</p>

<p>●天保 14 年 (1843) 3 月 26 日 6 時頃大地震あり、海辺に津波寄せ、赤前で家痛む [長沢災異記]。八戸白銀村で津波にメ粕流失、海辺の小屋 14 ~ 15 軒程痛み、小船や鯛釜流失 [遠山家日記]</p>
<p>●天保 14 年 (1843) 6 月 7 日 18 時頃大地震あり、沢内 (岩手県) で家・家財痛む [沢内年代記]。</p>
<p>●嘉永 7 年 (1854) 閏 7 月 2 日 真夜中、八戸で強震あり、城内御朱印庫のほか土蔵破損、家士・町家の被害多し [奥南温古集]。</p>
<p>●嘉永 7 年 (1854) 閏 7 月 5 日 20 時過ぎに大地震あり、八戸城御朱印蔵・御土蔵・御納戸など大破 [御用人所日記]。</p>
<p>○安政 2 年 (1855) 10 月 2 日 安政江戸地震。21 時過ぎに江戸大地震、死者 7 千人余り [歴史災害事典]。</p>
<p>●安政 3 年 (1856) 7 月 23 日 12 時頃強い地震があり、間もなく津波寄せる。宮古代官所前の往来に水上がり、鍬ヶ崎では小島あたりより大鍬ヶ崎 (日立浜・角力浜) まで水上がる。鍬ヶ崎浦・高浜浦・金浜浦・赤前浦で居家の被害 108 軒 [内史略]。</p>
<p>●安政 5 年 (1858) 5 月 28 日 20 時頃大地震あり、八戸で土蔵など所々破損 [遠山家日記]。</p>
<p>●文久元年 (1861) 9 月 17 日 真夜中に大地震あり人家の痛み甚だしく、登米郡で 300 ~ 400 軒程破損 [大内家日記]。</p>
<p>○明治 13 年 (1880) 2 月 22 日 明治横浜地震。1 時頃地震発生、横浜を中心に被害。日本地震学会設立 [歴史災害事典]。</p>
<p>○明治 27 年 (1894) 6 月 20 日 明治東京地震。14 時 4 分東京東部を震央とする地震が発生、家屋・建造物に甚大な被害 [歴史災害事典]。</p>
<p>○明治 27 年 (1894) 10 月 22 日 庄内地震。17 時 35 分に庄内平野を震源とする地震発生、山形県酒田を中心に被害 [歴史災害事典]。</p>
<p>●明治 29 年 (1896) 6 月 15 日 明治三陸地震津波。19 時 32 分頃三陸沿岸で震度 2 程度の地震を感じる。約 30 分後、大音響と共に大津浪襲来、岩手県綾里村白浜で最大打上高 38.2 ㍎を記録、死者 2 万 2 千人 [歴史災害事典]。</p>
<p>○明治 29 年 (1896) 8 月 31 日 陸羽地震。17 時 6 分に秋田県東南部に地震発生、岩手県沢内村にかけて被害。東北受難の年と言われる [歴史災害事典]。</p>
<p>○大正 3 年 (1914) 3 月 15 日 秋田仙北地震。4 時 59 分に秋田県西仙北地域で地震発生、秋田県内に被害 [歴史災害事典]。</p>

○大正 12 年 (1923) 9 月 1 日 関東大震災。11 時 58 分神奈川県西部を震源とするマグニチュード 7.9 の地震発生。死者 10 万 5 千人、全潰家屋推定 11 万棟、都市部での大火災により我が国自然災害史上最悪の被害となる。相模湾で津波発生 [歴史災害事典]。
●昭和 8 年 (1933) 3 月 3 日 昭和三陸地震津波。2 時 31 分、三陸沿岸で震度 5 の激しい揺れがあり、30 分から 1 時間内に北海道から三陸地方を津波が襲った。岩手県で死者 1,408 名、行方不明者 1,263 名 (岩手県昭和震災誌) [歴史災害事典]。
●昭和 13 年 (1938) 5 月 - 11 月 塩屋崎沖地震。5 月 23 日 16 時 18 分マグニチュード 7.0、11 月 5 日から立て続けに大地震が発生し、福島東方沖地震とも言われる。11 月 5 日の地震に伴って軽微な津波が襲来、福島県小名浜で全震幅 107 釐、宮古は 45 釐を記録 [歴史災害事典]。
●昭和 27 年 (1952) 3 月 4 日 昭和三陸沖地震。10 時 22 分、北海道襟裳岬沖から釧路川沖にいたる沖合でマグニチュード 8.2 の地震発生。震動による被害は北海道に限られたが、津波が東北地方北部の太平洋側で 1 ~ 2 釐に達した [歴史災害事典]。
●昭和 35 年 (1960) 5 月 24 日 チリ地震津波。南米チリのバルディビア沖で 23 日 4 時 11 分にモーメントマグニチュード 9.5 の世界最大の地震が発生。23 時間後の翌日未明に日本に到達、北海道から千葉県まで 6 道県と沖縄県で合わせて 142 人の死者・行方不明者を出した [歴史災害事典]。
○昭和 39 年 (1964) 6 月 16 日 新潟地震。13 時 1 分に新潟県村上市沖合から阿賀野川河口沖で発生したマグニチュード 7.5 の逆断層地震。秋田県から新潟県までの日本海沿いで液状化が発生し、石川・島根県は津波による被害が出た [歴史災害事典]。
●昭和 43 年 (1968) 5 月 16 日 十勝沖地震。9 時 49 分に青森県東方沖を震源とするマグニチュード 7.9 の地震が発生した。北海道の襟裳岬から岩手県北部にかけて震動被害が、釧路から青森・岩手・宮城県北部の太平洋沿いに数釐の津波による被害が発生した。津波は八戸・野田・宮古・大槌などで 5 釐以上となったが、干潮時にあつたことと、津波防潮堤の設置が進んでいたこともあり津波被害は軽くなった [歴史災害事典]。
○昭和 48 年 (1973) 6 月 17 日 根室半島沖地震。12 時 55 分に根室半島東南沖を震源とするマグニチュード 7.4 の地震が発生。地震による被害は根室から釧路にとどまり小規模であった。津波は花咲で 4 釐以上、十勝港で 1.2 釐と道東で浸水被害があった [歴史災害事典]。
●昭和 53 年 (1978) 6 月 12 日 宮城県沖地震。17 時 14 分に金華山沖を震源としたマグニチュード 7.4 の地震である。宮城県を中心に被害を受け、人口 50 万人を越える大都市仙台が地震に見舞われ、ライフラインの耐震性の低さが認識された [歴史災害事典]。
○昭和 58 年 (1983) 5 月 26 日 日本海中部地震津波。12 時 00 分、能代から津軽の沖合でマグニチュード 7.7 の地震が発生し、震源に近いところでは 10 分も経たずに大津波が到達した。津波は日本海全体に及び能登半島や隠岐・北海道西岸に被害をもたらした [歴史災害事典]。

<p>○平成5年(1993)7月12日 北海道南西沖地震。22時17分、北海道南部の日本海側の奥尻島北方沖を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生。地震発生後わずか5分で奥尻島に津波が来襲し、南東部の初松前では波高が20<small>メートル</small>近くになった〔歴史災害事典〕。</p>
<p>○平成7年(1995)1月17日 阪神・淡路大震災。5時46分、明石海峡下を震源として六甲・淡路断層帯で発生したマグニチュード7.3の地震で、1995年兵庫県南部地震と呼ばれる。倒壊家屋が3割を越えるとされる震度7をはじめて記録、被害は甚大で死者6,434人、行方不明者3人、負傷者43,792人、被害建物689,776棟。被害額は約10兆円に達した〔歴史災害事典〕。</p>
<p>●平成15年(2003)7月26日 宮城県北部地震。宮城県の北部を震源とした浅い地震。局所的に大きな被害があり、住家全壊1,276軒〔災害史に学ぶ〕。</p>
<p>●平成15年(2003)9月26日 十勝沖地震。4時50分に襟裳岬沖から釧路川沖で発生したマグニチュード8.0の地震が発生。人的被害は少なかったが、住宅全壊116棟、半壊368棟、津波による床下浸水9棟の被害が出た。津波は十勝港で2.6<small>メートル</small>、厚内1.8<small>メートル</small>など北海道東南部から岩手県にかけて1～2<small>メートル</small>と昭和27年の津波より小規模だった〔歴史災害事典〕。</p>
<p>○平成16年(2004)10月23日 新潟県中越地震。17時56分六日町断層帯北部を震源とするマグニチュード6.8の浅い地震が発生。長岡市の山古志<small>やまこし</small>や小国<small>おぐに</small>、小千谷市・魚沼市などで倒壊や土砂崩壊など大きな被害が出た〔歴史災害事典〕。</p>
<p>○平成19年(2007)7月16日 新潟県中越沖地震。10時13分柏崎から観音岬の沖合でマグニチュード6.8の地震が発生。柏崎市・長岡市・刈羽村で震度6強、新潟県内の広範囲で震度5強から4の強い揺れに襲われた。気象庁は新潟県上・中・下越と佐渡に津波注意報を発表し、柏崎で32<small>センチ</small>、秋田県から石川県にかけての日本海沿岸で小さい津波が観測された。東京電力柏崎刈羽原子力発電所が、原発として世界ではじめて地震で被災したが、地震動の強さに対して被害が軽かった〔歴史災害事典〕。</p>
<p>●平成20年(2008)6月14日 岩手・宮城内陸地震。岩手・宮城県境付近でマグニチュード7.2の地震が発生。岩手県奥州市と宮城県栗原市で震度6強を記録。住家全壊30、死者・行方不明者23人で、ほとんどが山地での土砂災害による〔災害史に学ぶ〕。</p>

*月日は明治以前は和暦(太陰暦)、明治以降は太陽暦で表示した。

*東京大学地震研究所編「新収日本地震史料」を底本とし、三陸沿岸に被害が記録された地震・津波を抽出した(●印)。三陸地方に大きな被害はないが、東日本を中心に歴史上重要な地震・津波も掲載した(○印)。

*被害状況の後に〔 〕で出典(資料名)を記した。地震・津波の概要は、主に「日本歴史災害事典」「災害史に学ぶ海溝型地震・津波編」を参考にした。

津波の高さと被害

(1) 昭和8年三陸地震による津波の高さ (岩手県)

郡名	町村名	地名	浪高 (米)	明治29年 津浪高(米)	差 (米)
気仙(広田湾)	気仙村	福伏	3.2		
	同	長部	3.2	3.4	-0.2
	高田町	高田町海岸	3.0		
	同	脇沢	3.2		
	同	砂浜	4.5		
	小友村	両替	3.0		
	同	三日市	1.0	2.4	-1.4
	同	泊港	4.5	7.6	-3.1
気仙(大野湾)	同	根岬	11.2		
	広田村	六ヶ浦	3.5		
	同	大野湾奥	4.0		
気仙(門之浜湾)	小友村	唯出	3.4	10.7	-7.3
	末崎村	梅真	3.5		
気仙(外洋)	末崎村	泊里	5.7		
	同	碁石	3.5		
気仙(大船渡湾)	同	細浦	3.1	6.7	-3.6
	同	石浜	4.5		
	同	船河原	3.9		
	大船渡村	丸森	4.2		
	同	下船渡	3.0	5.5	-2.5
	同	永沢	3.3		
	同	大船渡	2.4	3.4	-1.0
	同	盛町海岸	3.6		
	赤崎村	生形	2.8		
	同	蛸ノ浦	4.3		
	同	長崎	4.3		
気仙	赤崎村	合足	7.3		
	綾里村	綾里港	4.5	10.7	-6.2
気仙(綾里湾)	綾里村	白浜	23.0	22.0	+1.0
気仙(越喜来湾)	同	砂子浜	2.3		
	同	小石浜	3.8	10.4	-6.6
	越喜来村	下甫嶺	4.2		
	同	越喜来	3.0	10.4	-7.4
	同	泊	4.0		
	同	浦浜	3.2	9.8	-6.6
	同	浦浜川岸	7.0		
気仙(吉浜湾)	吉浜村	吉浜	9.0	24.4	-15.4
	同	千歳	6.0		
気仙(唐丹湾)	唐丹村	大石	3.0		
	同	小白浜	6.0	16.7	-10.7
	同	本郷	6.0	14.0	-8.0
上閉伊(釜石湾)	釜石町	嬉石	4.2	4.4 (ママ)	-0.1 (ママ)
	同	釜石	5.4	5.4	-2.8
上閉伊(両石湾)	鵜住居村	水海	7.0		
	同	両石	6.4	11.6	-5.2
上閉伊(大槌湾)	鵜住居村	海岸	4.5		
	同	片岸	5.4		
	同	室ノ浜	5.2		
	大槌町	大槌	3.9	2.7	+1.2
	同	大安渡	4.2	4.3	-0.1
	同	赤浜	4.6		
上閉伊(船越湾)	大槌町	吉里吉里	6.0	10.7	-4.7
	同	浪板	5.5	10.7	-5.2
下閉伊(船越湾)	船越村	船越	6.0	10.5	-4.5
	同	田ノ浜	6.0	9.2	-3.2
下閉伊(山田湾)	織笠村	織笠	2.4	3.4	-1.0
	山田町	伝作鼻			

郡名	町村名	地名	浪高 (米)	明治29年 津浪高(米)	差 (米)
下閉伊(山田湾)	山田町	山田町	4.5	5.5	-1.0
	大沢村	大沢	6.0	4.0	+2.0
	重茂村	川代	4.5		
下閉伊(山田湾)	同	石浜	12.0		
	同	千鶏北側	13.6	17.1	-3.5
	同	同南側	6.0		
下閉伊(外洋)	重茂村	姉吉	12.4	18.9	-6.5
	同	里	10.9		
	同	重茂	10.8	11.0	-0.2
	同	音部	7.6	9.2	-1.6
下閉伊(宮古湾)	同	鵜磯	4.5		
	磯鶏村	白浜	2.1	8.5	-6.4
	同	堀内	1.7	12.2	-10.5
	津軽石村	赤前	2.1		
	同	法ノ脇	1.6		
	磯鶏村	金浜	1.2	4.0	-2.8
	同	磯鶏	4.5	6.1	-1.6
	宮古町	宮古	3.6	4.6	-1.0
下閉伊(外洋)	鍬ヶ崎町	蛸ノ浜	6.7		
	崎山村	遊戸	7.5		
	田老村	田老	10.1	14.6	-3.5
	小本村	小本	13.0	12.2	+0.8
下閉伊(外洋)	田野畑村	島ノ越	9.7		
	同	平井賀	8.2		
	同	羅賀	13.0	22.9	-9.9
	同	明戸	16.9	12.2	-1.6
	普代村	太田名部	13.0	15.2	-2.2
	同	普代	11.5		
九戸(外洋)	野田村	玉川	5.8	18.3	-12.5
	同	野田	5.5		
	宇部村	久喜	5.5	12.2	-6.7
九戸(久慈湾)	同	小袖	8.2	13.7	-5.5
	久慈町	久慈海岸	5.5		
九戸(外洋)	同	湊	4.5		
	同	海岸	6.0		
	侍浜村	海岸	10.6		
	中野村	海岸	7.0		
	種市村	八木	6.0	10.7	-4.7
	同	種市	6.0	9.1	-3.1

三陸沖強震及津浪に就て「驗震時報 第七卷」「昭和八年三月三日 三陸沖強震及津浪報告」中央气象台より作成

(2) 明治29年6月15日の三陸津浪による被害(県別)

区別		岩手県	宮城県	青森県	合計
人	死者	18,158	3,452	299	21,909
	傷者	2,943	1,241	214	4,398
	行方不明	不詳	—	44	(44)
	計	(21,101)	4,693	557	26,351
家屋	流失	4,801	3,121	602	*8,526
	倒潰	726	854	264	1,844
	焼失	—	—	—	—
	浸水	1,175	2,426	93	3,694
	計	6,702 外2,532	6,403	959	16,596
船舶	流失	4,453	1,145	122	5,720
	破損	1,003	—	207	1,210
其ノ他	家畜・堤防・橋梁・山林・農作物・道路				

震災予防調査会報告第十一号による。

◆三陸津浪に依る被害調査「験震時報 第七巻」[昭和八年三月三日 三陸沖強震及津浪報告]

中央气象台より作成

(*印は、計算が合わない。)

(3) 昭和8年3月3日の三陸津浪による被害(県別)

区別		岩手県	宮城県	青森県	北海道	福島県	山形県	合計
人	死者	1,522	169	22	13	—	—	1,726
	傷者	881	145	70	56	—	—	1,152
	行方不明	1,136	138	8	—	—	—	1,282
	計	3,539	452	100	69	—	—	4,160
家屋	流失	3,850	950	85	32	—	—	4,917
	倒潰	1,585	528	136	90	—	(7)	2,346
	浸水	2,520	1,520	107	182	—	—	4,329
	焼失	249	—	—	—	—	—	249
	計	8,204	2,998	328	304	—	(7)	11,841
船舶	流失	(5,860)	948	314	178	3	—	7,303
	破損	破損ヲ含ム	425	317	158	10	—	910
其ノ他	農作家畜山林等		船具漁具等		堤防決潰乾魚流失	醸造酒溢出(23.8石)		
損害見積額 (単位百円)	(108,777)	13,068	2,424	2,471	8	(23)	126,770	

表中括弧を附したものは内務省警保局の調査によるもの。

◆三陸津浪に依る被害調査「験震時報 第七巻」[昭和八年三月三日 三陸沖強震及津浪報告] 中央气象台より作成

(4) 明治 29 年三陸地震津波 岩手県管内海嘯被害表

		総人口	死 亡	負 傷	総戸数	流失家屋	半壊家屋
気仙郡	気仙村	3,651	23	10	569	35	16
	高田村	3,489	3	未詳	616	未詳	未詳
	米崎村	3,460	12	2	350	11	50
	小友村	2,519	260	14	381	70	5
	広田村	3,102	500	11	469	163	未詳
	末崎村	2,965	606	30	400	191	未詳
	大船渡村	2,304	780	35	306	105	30
	赤崎村	2,985	448	68	389	172	未詳
	綾里村	2,803	1,458	59	451	285	100
	越喜来村	2,449	411	60	322	113	124
	吉浜村	1,075	215	9	133	32	33
	唐丹村	2,807	2,100	20	474	341	3
	合 計	33,609	6,816	318	4,860	1,518	361
	南閉伊郡	釜石町	6,557	4,700	500	1,223	1,080
鵜住居村		3,147	1,069	190	511	350	未詳
大槌町		6,555	900	724	1,192	369	未詳
合 計		16,259	6,669	1,414	2,926	1,799	未詳
東閉伊郡	船越村	2,295	1,327	701	474	371	1
	織笠村	1,800	67	50	303	105	25
	山田町	3,746	1,040	150	782	359	250
	大沢村	1,036	550	59	199	196	未詳
	重茂村	1,493	700	33	236	159	未詳
	津軽石村	2,618	3	1	434	8	未詳
	磯鶏村	1,996	90	54	365	109	未詳
	鍛ヶ崎町	3,459	100	33	701	300	50
	宮古町	5,157	12	未詳	993	20	未詳
	崎山村	981	160	12	155	45	9
	田老村	3,747	2,655	277	666	130	未詳
	合 計	28,328	6,704	1,370	5,308	1,802	335
北閉伊郡	小本村	2,090	367	257	386	156	147
	田野畑村	3,025	303	15	465	47	42
	普代村	2,038	1,010	153	330	95	49
	合 計	7,153	1,680	425	1,181	298	238

「明治二十九年地震報告」中央气象台より作成

(5) 昭和8年3月3日の三陸津浪による被害 (岩手県)

町村名	部落名	死者	行衛不明	傷者	計	流失	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	焼失	計	戸数	人口	備考
気仙郡 広田村	長洞	3	1	—	4	7	—	1	—	—	—	8	75	587	
	中央	—	2	5	7	14	7	3	1	7	—	32	88	623	
	喜多	6	4	—	10	14	—	—	—	—	—	14	96	842	
	根岬	2	15	2	19	23	—	1	—	—	—	24	75	622	
	中沢浜	2	1	1	4	13	5	—	3	—	—	21	79	595	
	泊	7	2	6	15	42	3	—	1	2	—	48	114	752	
	大陽	—	—	—	—	4	—	—	—	—	—	4	56	512	
広田村	小計	20	25	14	59	117	15	5	5	9	—	151	583	4,533	流失戸数は住家のみ記入
気仙郡 小友村	只出	8	10	—	18	30	1	2	2	—	—	35	35	224	
	三日市	—	—	—	—	1	—	3	26	—	—	30	30	165	
	両替	—	—	—	—	1	4	5	18	—	—	28	27	164	
	矢浦	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	2	2	21	
	塩谷	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	2	2	5	
	森崎	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	1	3	
小友村	小計	8	10	2	20	32	6	11	49	—	—	98	99	601	石浜を含む
気仙郡 末崎村	船河原	13	5	9	27	8	—	1	—	—	—	9	—	—	
	峯岸	2	—	6	8	42	—	5	8	—	—	55	—	—	
	細浦	1	—	2	3	31	—	1	1	—	—	33	—	—	
	中野	4	1	3	8	34	—	1	1	—	—	36	—	—	
	小細浦	—	1	3	4	12	—	1	2	—	—	15	—	—	
	小河原	—	—	1	1	1	—	—	—	—	—	1	—	—	
	門之浜	—	—	1	1	8	—	—	4	—	—	12	—	—	
泊里	9	3	1	13	20	—	9	13	—	—	42	—	—		
末崎村	小計	29	10	26	65	156	—	18	29	—	—	203	—	—	戸数人口は調査中
気仙郡 気仙村	要谷	—	—	—	—	—	—	5	1	—	—	6	6	51	
	福伏	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	1	8	
	双六湊	—	—	—	—	—	1	2	3	3	—	9	9	71	
気仙村	小計	31	1	18	50	49	1	13	11	4	—	78	78	554	
高田町	高田松原	3	—	2	5	3	1	—	—	—	—	4	4	9	部落別被害不明
米崎村		8	—	8	16	—	(18)	—	(14)	—	—	32	—	—	
気仙郡 大船渡町	下船渡	—	—	1	1	—	6	8	30	10	—	54	54	264	
	平	2	—	8	10	1	8	1	35	14	—	59	59	374	
	永井沢	—	—	1	1	—	—	8	9	4	—	21	25	121	
	笹ヶ崎	—	—	6	6	—	—	1	9	—	—	10	10	63	
	川原	—	—	2	2	—	—	2	16	4	—	22	22	69	
	茶屋	—	—	8	8	1	6	7	64	2	—	80	80	503	
赤沢	—	—	—	—	—	1	4	12	3	—	20	20	129		
大船渡町	小計	2	—	26	28	2	21	31	175	37	—	266	266	1,523	
気仙郡 赤崎村	宿	—	—	3	3	26	1	1	5	—	—	33	33	194	
	生形	3	—	5	8	7	3	3	6	7	—	26	26	177	
	山口	—	—	2	2	4	3	3	7	2	—	19	19	179	
	永浜	10	5	7	22	12	10	11	7	—	—	40	40	272	
	清水	16	5	5	26	12	2	2	6	3	—	25	25	120	
	上蛸浦	13	—	35	48	12	1	3	4	3	—	23	23	156	
	下蛸浦	19	1	35	55	9	7	8	6	—	—	30	30	201	
	長崎	—	—	—	—	2	—	—	3	—	—	5	5	35	
合足	20	8	3	31	8	—	—	1	2	—	11	11	55		
赤崎村	小計	81	19	95	195	92	27	31	45	17	—	212	212	1,389	
気仙郡 綾里村	田浜	1	1	—	2	30	—	1	4	2	—	37	51	339	他に他町村のもの死1名行不2名
	石浜	7	2	6	15	26	—	1	2	—	—	29	46	307	
	港下	38	18	1	57	59	—	—	—	—	—	59	60	303	
	港上	24	9	—	33	58	—	—	—	—	—	58	58	314	
	岩崎	1	—	—	1	18	—	1	6	6	—	31	62	369	
	野々前	—	1	—	1	6	—	—	—	—	—	6	46	337	
	白浜	18	48	12	78	32	—	2	—	—	—	34	42	312	
	砂子浜	1	1	—	2	2	—	—	—	—	—	2	16	156	
	小石浜	4	4	—	8	12	1	—	—	—	—	13	29	203	
綾里村	小計	94	84	19	197	243	1	5	12	8	—	269	410	2,640	

町村名	部落名	死者	行衛不明	傷者	計	流失	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	焼失	計	戸数	人口	備考
気仙郡 越喜来村	崎浜	31	19	20	70	26	6	5	7	3	-	47	165	1,120	
	浦浜	19	8	9	36	49	7	5	3	2	-	66	197	1,139	
	泊	-	1	-	1	16	4	5	3	1	-	29	57	381	
	甫嶺	6	3	5	14	21	9	-	2	1	-	33	94	550	
越喜来村	小計	57	30	34	121	112	26	15	15	7	-	175	513	3,190	
気仙郡 吉浜村	本郷	3	14	1	18	9	4	1	4	1	-	19	164	959	
	根白	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	69	471	
吉浜村	小計	3	14	1	18	10	4	1	4	1	-	20	233	1,430	
気仙郡 唐丹村	花露辺	4	6	12	22	9	2	2	5	-	-	18	66	403	
	本郷	209	117	21	347	100	1	-	-	-	-	101	101	620	
	小白浜	4	3	4	*13	96	2	6	1	-	-	105	160	958	
	片岸	5	1	5	*6	28	2	1	-	-	-	31	48	301	
	荒川	4	7	4	*11	7	2	-	1	-	-	10	71	447	
	大石山谷	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	78	490	
唐丹村	小計	226	134	*40	*400	240	9	9	8	-	-	266	549	3,380	
上閉伊郡 釜石町	只越	15	8	40	63	52	42	29	125	187	114	549	932	5,592	
	大渡	-	-	16	16	5	3	2	214	214	-	438	898	3,788	
	場所	-	-	21	21	-	11	31	10	3	132	187	206	1,236	
	仲町	1	-	11	12	1	14	76	37	55	-	183	280	1,680	
	東前	-	-	14	14	-	16	83	24	36	-	159	255	1,530	
	松原	-	-	9	9	1	51	64	18	26	3	163	203	1,218	
	嬭石	2	-	8	10	42	35	84	5	7	-	173	207	1,242	
平田	4	6	7	17	11	17	40	27	36	-	131	189	1,134		
釜石町	小計	22	14	126	162	112	189	409	460	564	249	1,983	3,170	17,420	
上閉伊郡 鵜住居村	両石	2	1	6	9	86	-	2	2	1	-	91	92	-	
	水海	-	-	-	-	2	1	-	2	1	-	6	14	-	
	箱崎	-	-	1	1	7	3	6	4	13	-	33	95	-	
	桑浜	-	-	-	-	4	2	-	-	-	-	6	15	-	
	白浜	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	52	-	
	根浜	-	-	-	-	3	1	4	-	3	-	11	16	-	
	片岸	-	-	1	1	20	3	5	10	1	-	39	52	-	
室浜	1	3	7	11	9	3	3	8	6	-	29	52	-		
鵜住居村	小計	3	4	15	22	132	13	20	26	25	-	216	388	-	
上閉伊郡 大槌町	小槌	29	-	42	71	193	31	98	166	73	-	561	101	-	
	安渡	22	-	32	54	98	42	39	21	18	-	218	311	1,859	
	吉里吉里	10	-	25	35	104	15	13	18	20	-	170	458	2,885	
大槌町	小計	61	-	99	160	395	88	150	205	111	-	949	870	*11,250	
下閉伊郡 船越村	船越	3	-	3	6	23	-	1	-	-	-	24	164	1,025	
	田ノ浜	1	1	2	4	183	-	2	11	-	-	196	223	1,471	
船越村	大浦	-	-	-	-	5	-	14	16	-	-	35	179	1,267	
船越村	小計	4	1	5	10	211	-	17	27	-	-	255	566	3,763	
下閉伊郡 織笠村	細浦	-	3	-	3	1	-	-	-	-	-	1	6	-	
	跡浜	-	2	-	2	-	-	3	19	-	-	22	63	-	
	織笠	-	1	-	1	-	-	7	41	-	-	48	165	-	
織笠村	小計	-	6	-	6	1	-	10	60	-	-	71	234	-	
下閉伊郡 山田町	境田	3	-	9	12	64	-	4	9	6	-	83	83	498	
	川向	3	-	8	11	136	-	37	24	1	-	198	198	1,221	
	南町	-	-	6	6	52	-	7	13	33	-	105	128	738	
	八幡	-	-	-	-	-	-	-	-	32	-	32	32	175	
	中町	1	-	2	3	6	-	3	4	12	-	25	25	170	
	三日町	-	-	-	-	5	-	3	1	9	-	18	18	97	
	荒浜木	-	1	1	2	-	-	-	2	11	-	13	13	85	
釜谷洞	-	-	-	-	3	-	5	9	77	-	94	94	178		
山田町	小計	7	1	26	34	266	-	59	62	181	-	568	591	3,162	
大沢村	大沢	1	-	-	1	58	15	35	34	10	-	152	217	1,385	
下閉伊郡 重茂村	里	16	31	8	55	27	1	-	4	-	-	32	-	-	
	首部	6	7	-	13	2	4	-	1	-	-	7	-	-	
	姉吉	13	76	1	90	15	-	-	-	-	-	15	-	-	
重茂村	千鷲	-	10	-	10	2	-	-	-	-	2	-	-	-	

人口は調査中

行方不明は死亡と見なす

人口は調査中

外に非住家流失倒潰120浸水15あり

町村名	部落名	死者	行衛不明	傷者	計	流失	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	焼失	計	戸数	人口	備考
下閉伊郡 重茂村	石浜	—	7	1	8	1	1	—	1	—	—	3	—	—	人口戸 数ハ調 査中 外に納 屋附属 建物 209棟 流失
	川代	2	2	—	4	1	—	—	—	—	—	1	—	—	
	荒巻	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	鶺鴒	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	2	—	—	
仲組	追切	—	2	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	追切	—	2	—	2	—	—	—	1	—	—	1	—	—	
重茂村	小計	37	137	10	184	50	6	—	7	—	—	63	—	—	
下閉伊郡 津軽石村	津軽石	2	—	—	2	—	—	3	2	—	—	5	358	2,219	
	赤前	—	1	—	1	3	—	3	6	—	—	12	159	985	
津軽石村	小計	2	1	—	3	3	—	6	8	—	—	17	517	3,204	
下閉伊郡 磯鶏村	磯鶏	—	—	3	3	4	—	5	1	18	—	28	127	915	
	高浜	4	—	3	7	2	4	20	12	12	—	50	97	698	
	金浜	—	—	—	—	1	—	4	1	3	—	9	51	367	
	白浜	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	38	273	
太田浜	太田浜	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	2	14	
	小計	4	—	6	10	7	4	29	16	33	—	89	315	2,267	
下閉伊郡 宮古町	宮古	17	4	3	24	3	4	4	21	11	—	43	2,210	11,955	
	鎌ヶ崎	15	9	2	26	1	10	10	63	9	—	93	1,210	6,171	
宮古町	小計	32	13	5	50	4	14	14	*86	20	—	136	3,220	18,126	
下閉伊郡 崎山村	日出島	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	9	70	
	宿	—	—	1	1	1	—	1	—	—	—	2	4	39	
女遊戸	女遊戸	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	24	188	
	崎山村	小計	—	—	1	1	1	—	1	—	2	—	4	37	297
下閉伊郡 田老村	田老	471	292	118	881	358	—	—	—	—	—	358	362	1,798	
	榎内	7	—	—	7	2	—	—	—	—	—	2	24	12	
	荒谷	25	4	2	31	63	—	—	4	—	—	67	67	455	
	青砂里	28	8	2	38	46	—	—	—	—	—	46	46	276	
	野原	31	20	—	51	27	—	—	—	—	—	27	27	162	
	小港	6	2	—	8	2	—	—	1	—	—	3	3	28	
撰待	6	1	—	7	2	—	1	1	2	—	6	30	42		
田老村	小計	574	327	122	1,023	500	—	1	6	2	—	509	559	2,773	
下閉伊郡 小本村	小成	1	—	—	1	4	—	—	—	6	—	10	23	134	
	茂師	27	10	6	43	12	—	—	—	—	—	12	36	234	
	小本	115	3	26	144	77	2	1	—	29	—	109	145	792	
中野	中野	—	—	—	—	—	—	2	—	15	—	17	86	440	
	小本村	小計	143	13	32	188	93	4	1	—	50	—	148	290	1,600
下閉伊郡 田野畑村	明戸	3	1	1	5	1	—	—	—	—	—	1	28	184	
	羅賀	33	26	8	67	72	1	—	—	—	—	73	109	551	
	和野	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	3	22	164	
	島越	10	8	2	20	51	3	—	—	—	—	54	95	554	
	田野畑	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	18	140	
切牛	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	32	171		
田野畑村	小計	47	36	11	94	127	4	—	—	—	—	131	304	1,764	
下閉伊郡 普代村	普代	6	23	33	62	32	—	6	10	25	—	73	137	683	
	太田名部	21	78	45	144	43	—	2	2	—	—	47	58	255	
	堀内	1	6	3	10	4	—	2	1	—	—	7	78	321	
黒崎	—	2	—	2	—	—	—	—	—	—	—	45	178		
普代村	小計	28	109	81	218	79	—	10	13	25	—	127	318	1,437	
九戸郡 野田村	下安家	—	—	2	2	4	2	1	7	5	—	19	6	34	
	広内	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	3	3	8	
	米田	—	—	—	—	3	1	1	5	2	—	12	4	20	
	前浜	4	2	6	12	38	5	7	30	8	—	88	43	238	
新山	2	—	—	2	5	1	—	1	2	—	9	6	26		
野田村	小計	6	2	8	16	53	9	9	43	17	—	131	62	326	
九戸郡 宇部村	久喜	—	1	—	1	2	—	4	—	2	—	8	—	—	
	宇部	1	4	—	5	3	—	1	—	—	—	4	—	—	
宇部村	小計	1	5	—	6	5	—	5	—	2	—	12	—	—	
九戸郡 長内村	大尻	5	3	4	12	6	—	—	—	—	—	6	38	226	
	二子	—	—	—	—	20	—	—	—	—	—	20	20	117	
長内	2	—	1	3	9	1	—	—	—	—	10	102	558		
長内村	小計	7	3	5	15	35	1	—	—	—	—	36	160	901	

町村名	部落名	死者	行衛不明	傷者	計	流失	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	焼失	計	戸数	人口	備考
九戸郡久慈町	久慈港	—	—	1	1	35	—	1	1	9	—	46	35	242	他に漁業用納屋47棟 船小屋81棟 船揚場破損
	源道	—	—	—	—	33	—	—	—	—	—	33	—	—	
	上門前	—	—	—	—	4	—	—	—	—	—	4	—	—	
久慈町	久慈町	—	—	—	—	2	—	—	—	—	2	—	—		
久慈町	小計	—	—	1	1	74	—	1	1	9	—	85	—	—	
九戸郡夏井村	閉伊口	—	—	1	1	1	—	—	2	—	—	3	73	399	
夏井村	大崎	1	—	6	7	—	1	—	7	—	—	8	55	288	
夏井村	小計	1	—	7	8	1	1	—	9	—	—	11	128	687	
九戸郡侍浜村	横沼	—	2	1	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	桑畑	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	麦生	2	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
侍浜村	小計	2	2	2	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
九戸郡中野村	中野	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1	205	1,385	
	有家	—	2	—	2	—	—	—	—	—	—	—	117	827	
	小子内	3	1	1	5	2	—	3	—	1	—	6	98	683	
中野村	小計	3	3	1	7	3	—	3	—	1	—	7	420	2,895	
九戸郡種市村	八木	45	34	35	114	37	—	4	—	3	—	44	98	487	
	大浜	22	—	4	26	8	—	—	—	1	—	9	22	132	
	川尻	—	—	—	—	8	—	3	—	2	—	13	99	490	
種市村	小計	67	34	39	140	53	—	7	—	6	—	66	219	1,109	
総計		1,522	1,136	881	3,539	3,850	1,585		2,520		249	8,204			

盛岡測候所報告による。

◆三陸津浪に依る被害調査「験震時報 第七巻」「昭和八年三月三日 三陸沖強震及津浪報告」中央气象台より作成
(*印は、計算が合わない。)

(6) 津波浸水高表 (T.P.上*)

地名	湾名	明治29年	昭和8年	昭和35年 チリ地震津波	摘要
八木	八木港	18.3	7.2	3.1	偏平
久慈	久慈湾	—	8.7	4.5	大きなU字形
野田	野田湾	20.0	15.6	4.4	偏平
普代	普代湾	—	16.9	4.3	小さいU字形(偏平)
小本		11.8	13.4	4.1	小さいU字形(偏平)
田老		14.6	6.4	4.3	小さいU字形
宮古	宮古湾	9.1	8.2	2.0	大きい湾
金浜	宮古湾	6.3	3.5	5.6	大きい湾
姉吉	山田湾湾口	18.8	14.0	3.0	小さいV字形
大沢	山田湾	3.9	4.4	4.0	大きい湾
山田	山田湾	5.5	4.2	3.3	大きい湾
大槌	大槌湾	4.2	3.4	4.0	大きい湾
両石	両石湾	11.7	9.5	3.5	V字形
釜石	釜石湾	6.0	4.4	3.0	2重V字形
本郷	唐丹湾	15.3	9.9	—	小さいV字形
小白	唐丹湾	17.3	12.1	3.0	V字形
吉浜	吉浜湾	26.3	14.6	4.8	V字形
越喜	越喜来湾	11.3	6.3	3.4	V字形
白浜	綾里湾	38.2	29.3	4.9	V字形
大船	大船渡湾	5.8	3.1	4.4	大きい湾
細浦	大船渡湾	5.8	3.8	2.7	大きい湾
沼田	広田湾	—	3.5	5.4	大きい湾
長部	広田湾	4.6	3.6	5.2	大きい湾
只越	広田湾	10.5	8.5	4.6	大きい湾

〔岩手県災害関係行政資料I〕より作成

* T.P. … 東京湾平均海面のこと。各観測点の観測基準面(D.L.)から測った潮位にD.L.の標高(通常マイナスの値)を加えることで、T.P.(標高0_標)から測った潮位に変換することができる。

D.L.から測った潮位+D.L.の標高=T.P.から測った潮位
(気象庁技術報告第133号より)

(7) チリ地震津波による市町村別被害

区分→ 市町村名↓	建物関係	土木関係	耕地 関係	農林畜産 関係	水産関係	商工 関係	教育施 設関係	公用及び 公共施設 関係	公営企 業等施 設関係	合計
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
陸前高田市	432,630	668,700	441,417	132,184	835,250	51,395	450	7,760	260	2,570,046
大船渡市	1,149,900	295,974	86,575	156,763	332,823	2,157,482	6,234	4,678	1,200	4,191,629
釜石市	185,210	113,067	14,222	79,080	236,225	170,227	783	128		798,935
宮古市	272,400	265,610	73,732	73,098	273,769	51,227	22,875	1,543		1,034,254
久慈市	7,310	3,740		18,118	27,897	2,526	808			60,399
大槌町	364,330	49,200	3,993	47,579	338,277	156,840		2,960	70	963,199
山田町	489,310	41,500	43,558	41,237	485,121	191,378		230	800	1,293,134
田老町				6,054	896					6,950
岩泉町				12,403	569					12,972
種市町	3,070	59,200		5,143	31,519			100		99,032
三陸町	700	3,200	2,250	17,704	41,561					65,415
田野畑村			323	1,881	21,287					23,491
普代村		5,610	400	1,701	15,078					22,789
野田村	18,200		65,164	9,613	17,217					110,194
その他								261,500		261,590
計	2,923,060	1,505,794	731,634	602,558	2,657,439	2,781,075	31,150	278,899	2,330	11,513,939

「岩手県災害関係行政資料Ⅰ」より作成

(8) チリ地震津波による人的被害 (岩手県)

区分→ 市町村名↓	罹災者総数	罹災世帯数	死者	行方不明	負傷		合計
					重傷	軽傷	
陸前高田市	3,688	683	7人	1人	1人	1人	9人
大船渡市	7,466	1,480	50	3	27	275	355
釜石市	6,524	1,351					
宮古市	3,797	740		1			1
久慈市	192	40			1		1
大槌町	6,542	1,251			1	1	2
山田町	7,461	1,383			1	1	2
種市町	64	16					
三陸村	55	10					
野田村	132	20					
計	35,921	6,974	57	5	31	277	370

「岩手県災害関係行政資料Ⅰ」より作成

(9) チリ地震津波による家屋被害①

市町村名↓	区分→	住 家 の 被 害										
		全 壊			流 失			半 壊			浸 水 床 上	
		戸数	人員	被害額 千円	戸数	人員	被害額 千円	戸数	人員	被害額 千円	戸数	人員
陸前高田市	71	346	106,500	90	563	162,000	143	788	85,800	199	1,155	29,850
大船渡市	214	1,153	321,000	218	1,153	392,400	567	3,134	340,200	257	1,416	38,550
釜石市	17	83	25,000	11	50	19,800	25	111	15,000	768	3,773	115,200
宮古市	36	201	54,000	76	407	136,800	70	407	42,000	213	1,082	31,950
久慈市	1	4	1,500				4	20	2,400	4	22	600
大槌町	38	186	57,000	44	221	79,200	189	1,305	113,400	637	2,993	95,550
山田町	88	415	132,000	48	239	86,400	210	1,111	126,000	911	5,021	136,650
種市町				1	3	1,800				1	5	150
三陸村												
野田村				9	58	16,200	1	8	600			
計	465	2,388	697,500	497	2,694	894,600	1,209	6,884	725,400	2,990	15,467	448,500

(9) チリ地震津波による家屋被害②

市町村名↓	区分→	住 家 の 被 害						非住家の被害		合 計	
		浸 水 床 下			計			戸数	被害額 千円	戸数	被害額 千円
		戸数	人員	被害額 千円	戸数	人員	被害額 千円				
陸前高田市	67	403	670	570	3,255	384,820	683	47,810	693	432,660	
大船渡市	105	610	1,050	1,361	7,466	1,093,200	810	56,700	1,361	1,149,900	
釜石市	530	2,507	5,300	1,351	6,524	180,800	63	4,410	1,351	185,210	
宮古市	345	1,700	3,450	740	3,797	269,200	60	4,200	740	272,400	
久慈市	1	2	10	10	48	4,510	40	2,800	40	7,310	
大槌町	343	1,837	3,430	1,251	6,542	348,580	225	15,750	1,251	364,330	
山田町	126	675	1,260	1,383	7,461	482,310	100	7,000	1,383	489,310	
種市町				2	8	1,950	16	1,120	16	3,070	
三陸村							10	700	10	700	
野田村				10	66	16,800	20	1,400	20	18,200	
計	1,517	7,734	15,170	6,678	35,167	2,781,170	2,027	141,890	6,855	2,923,060	

「岩手県災害関係行政資料Ⅰ」より作成

参考文献

- 岩手県 『岩手県東日本大震災津波の記録』 二〇一三年三月
 岩手県 『チリ地震津波災害復興誌』 一九六九年三月
 岩手県宮古市 『東日本大震災の「記録」〜岩手県宮古市〜』
 二〇一三年三月
 岩手県大船渡市 『チリ地震津波 1960 大船渡災害誌』
 一九六二年六月
 岩手県編纂 『岩手県昭和震災誌』 一九三四年九月 岩手県知事官房
 岩手県立図書館 『岩手史叢 第五卷 内史略(5)』 一九七五年八月
 岩手県文化財愛護協会
 重茂・千鶏区観音像建立実行委員会編集部会 『大海嘯誌』
 一九八二年六月
 気象庁 『気象庁技術報告 第133号 平成23年(2011年)』
 東北地方太平洋沖地震調査報告 第1編』 二〇一二年十二月
 北原糸子・松浦律子・木村玲欧編 『日本歴史災害事典』 二〇一二年六月
 (株)吉川弘文館
 首藤伸夫ほか編集 『津波の事典』 二〇〇七年十一月
 昭和ニュース事典編纂委員会 『昭和ニュース事典 第四卷(昭和8年―
 昭和9年)』 一九九一年六月 (株)毎日コミュニケーションズ
 白い国の詩編 『北方の児童文集 岩手編』 二〇〇八年六月 東北電力(株)
 震災予防調査会編纂 『大日本地震史料(上下巻)』 一九〇四年五月
 丸善株式会社
 仙台管区気象台 『昭和35年5月24日 チリ地震津波調査報告』
 一九六一年一月
 (有)タウン情報社 『月刊みやこわが町 2013/9 NO. 417』
 二〇一三年八月
 高浜自治会 『津波記念誌 チリ地震津波より三十年あの惨状を振り返って』
 一九九一年二月
 田面木貞夫編・著 『遠野が生んだ先覚者 山奈宗真』 一九八六年三月
 田老尋常高等小学校 『昭和九年三月三日一回忌記念 田老村津浪誌』
 田老小学校編』 一九三四年九月
 田老町教育委員会 『伝聞ふるさと津波誌(三陸大津波)』
 一九九一年三月
 田老町教育委員会編 『田老町史 津波編(田老町津波誌)』
 二〇〇五年五月
- 田老町史編纂委員会 『田老町史(第一集) 防災の町』 一九七一年九月
 中央気象台 『三陸沖強震及津浪概報』 一九三三年三月
 中央気象台 『昭和八年三月三日三陸沖強震及津浪報告』 一九三三年八月
 中央気象台編纂 『験震時報』 第七卷 一九三四年五月 三秀舎
 中央防災会議 『災害教訓の継承に関する専門調査会』 編 『災害史に学ぶ海溝
 型地震・津波編』 二〇一一年三月 内閣府(防災担当) 災害予防担当
 遠野市立遠野文化研究センター 『復刻版 明治29年「風俗画報」臨時増刊
 大海嘯被害録 マヨヒガ 遠野文化友の会会報 VOL. 2』
 二〇一二年三月 (有)荒蝦夷
 東京大学史料編纂所 『大日本史料』 一九〇六年三月 東京大学出版会
 東京大学地震研究所編 『新収日本地震史料』 第一巻〜第五巻
 一九八一年三月 東京大学地震研究所
 東京大学地震研究所編 『新収日本地震史料補遺』 一九八九年三月
 東京帝国大学地震研究所編纂 『地震研究所彙報別冊 第1号 昭和8年
 3月3日三陸地方津浪に関する論文報告』 一九三四年三月 岩波書店
 東北大学工学部土木教室編纂 『東北大学工学部土木教室研究報告 第21号
 1968年十勝沖地震調査報告』 一九六九年三月
 東北大学東北文化研究会編 『蝦夷史料』 一九五七年九月 吉川弘文館
 南部叢書刊行会 『南部叢書(一)』 一九七〇年一月 (株)歴史図書社
 (独)防災科学技術研究所 『東日本大震災津波浸水図』 二〇一二年三月
 宮古市 『宮古市東日本大震災津波浸水図』 二〇一二年九月
 宮古市 『広報みやこ』 昭和43年6月1日号 一九六八年六月
 宮古市 『広報みやこ』 平成23年6月1日号 二〇一一年六月
 宮古市教育委員会編 『宮古市の石碑』 二〇一〇年三月
 宮古市教育委員会編 『宮古市史 資料集(近世五)』 一九八九年三月
 宮古市
 宮古市教育委員会編 『宮古市史 資料集(近代一―二)』
 一九九九年十二月 宮古市
 宮古市教育委員会編 『宮古市史 年表』 一九九一年三月 宮古市
 明治ニュース事典編纂委員会 『明治ニュース事典 第五卷(明治26年―
 明治30年)』 一九八五年一月 (株)毎日コミュニケーションズ
 盛岡市教育委員会 『盛岡藩家老席日記 雑書』 第十六巻〜第二十五巻
 二〇〇四年一月〜二〇一〇年十月 東洋書院
 盛岡市中央公民館 『盛岡藩 雑書』 第一巻〜第十五巻
 一九八六年二月〜二〇〇一年十二月 熊谷印刷出版部
 盛岡地方気象台・岩手県 『岩手県災異年表』 一九七九年六月
 日本気象協会盛岡支部

山口彌一郎 『津浪と村』 一九四三年九月 恒春閣書房
1968年十勝沖地震調査委員会 『1968年十勝沖地震調査報告』
一九六九年三月

協力者（敬称略）

機 関

岩手県総務部総合防災室
気象庁
気象庁盛岡地方気象台
警視庁緊急災害警備本部
国土地理院
国立国会図書館
タウン情報社
田老漁業協同組合
東京大学地震研究所
東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ
特定非営利法人ワールド・ビジョン・ジャパン
独立行政法人防災科学技術研究所
宮古漁業協同組合

個 人

前川 均
和田 薫

宮古市東日本大震災記録編集委員会

(編集委員)

		氏名	研究機関・役職
		委員長	神田 より子 敬和学園大学 人文学部教授
		副委員長	南 正昭 岩手大学 工学部教授
		委員	小川 直之 國學院大學 文学部教授
〃	岸 昌一		岩手大学 工学部准教授 前宮古市史編さん室長
〃	平井 寛		

(事務局)

氏名	所属・役職
坂下 昇	総務企画部長 (24～25年度)
佐藤 廣昭	教育部長 (24～25年度)、総務企画部長 (26年度)
熊谷 立行	教育部長 (26年度)
山崎 政典	総務企画部 企画課長
竹下 將男	教育委員会 文化課長
三河 浩	企画課 広報担当 主査 (24年度)
田中 富士春	〃 主査 (25年度)
川内 義昭	〃 主査
假屋 雄一郎	教育委員会 文化課 市史編さん室 主査

東日本大震災宮古市の記録 第1巻（津波史編）概要版

平成二十六年（二〇一四）九月一日 発行

編集 宮古市東日本大震災記録編集委員会
発行 宮古市

宮古市新川町二一―

印刷 株式会社文化印刷

宮古市松山五一三―六

